

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

〒 110-0016

所在地 東京都台東区台東三丁目2番5号大林ビル2F

評価機関名 有限会社エテルノ

認証評価機関番号

機構 06 - 169

電話番号 03-5812-0840

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

福祉サービス種別	認可保育所		
評価対象事業所名称	大田区立池上第三保育園		
事業所連絡先	〒	146-0082	
	所在地	東京都大田区池上5-15-22	
	TEL	03-3755-6443	
契約日	2025年	4月	1日
利用者調査票配付日(実施日)	2025年	6月	23日
利用者調査結果報告日	2025年	8月	26日
自己評価の調査票配付日	2025年	6月	23日
自己評価結果報告日	2025年	8月	26日
訪問調査日	2025年	8月	29日
評価合議日	2025年	9月	12日
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	評価実施にあたり、評点基準や根拠書類の準備について、わかりやすく解説した独自マニュアルを用いて説明を行っている。分析シートは記入の手引きを用意し、効果的に情報が整理できるよう工夫を行っている。確認根拠資料は、訪問調査の概ね4週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ってから訪問調査を実施している。訪問調査は事業所の課題や良い点を中心に把握することを重点に置いて実施している。合議は、訪問調査終了後に速やかに実施している。		

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>（理念）        一子ども一人一人の心身の健やかな成長を支え生きる力を育てますー        私たちは一人一人の子どもが十分に愛される中で自分の存在を大切にし保育士や友達と安心して過ごせる保育園を目指します</p> <p>（方針）        ・子ども達の生活と遊びを通して、主体的に行動できる力を培う環境作りに努めます。        ・子ども達にとって、安心して生活できる心地よい場所となるように環境を工夫します。        ・一人一人の状態を把握し、安心と信頼が持てるように丁寧な関わりをしていきます。        ・保護者との信頼関係を大切にし、保護者を理解するように努め良き親支援を行います。        ・保育士は専門家としての自覚を持ち、常に保育技術や知識の向上に努めます。</p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学ぶ姿勢を持ち続けられる職員</li> <li>・自身の保育を真摯に振り返ることができる職員</li> <li>・自分のクラスだけではなく、園全体を把握して行動できる職員</li> <li>・拠点園の職員として地域の状況やニーズの把握に的確に対応できる職員</li> <li>・公務員としての意識を持って仕事に臨める職員</li> </ul> <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに愛情をもって優しく関わり、子どもがいつも安心していられるような保育をすること</li> <li>・自身の資質を高めようと常に努力できること</li> <li>・自身の保育を振り返り、改善しようと意識できること</li> <li>・今、何が重要かを意識して動けること</li> <li>・守秘義務・法令順守など公務員としての自覚を持って行動できること</li> </ul>

調査対象	保育園に通っている園児111世帯129人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。		
調査方法	保護者にはウェブ調査回答用URLおよびQRコード、IDを配付して、回答をウェブ上で収集した。外国語世帯のみ調査票の直接郵送にて回収した。結果は選択式・自由記述式ともに園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。		
利用者総数	129		
利用者家族総数(世帯)	111		
共通評価項目による調査対象者数	111		
共通評価項目による調査の有効回答者数	85		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	76.6		

**利用者調査全体のコメント**

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」63.5%、「満足」30.6%の計94.1%であった。自由意見では、「園庭もあり、安全に外遊びができる。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」などの17問中14問が80%以上の支持を得ている。

**利用者調査結果**

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	82	2	1	0
「はい」の回答は96.5%、「どちらともいえない」の回答は2.4%、「いいえ」の回答は1.2%であった。 自由意見では、「歌やマット遊びなど、家ではできない遊びをしていただいています」「何でも挑戦しようとする気持ちが育っていると感じる」という声が寄せられていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	83	1	1	0
「はい」の回答は97.6%、「どちらともいえない」の回答は1.2%、「いいえ」の回答は1.2%であった。 自由意見では、「季節の行事や食べ物などの自然に取り入れられたものが多く、家庭では教えきれない体験をたくさんさせてもらっています」という声が寄せられていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	76	9	0	0
「はい」の回答は89.4%、「どちらともいえない」の回答は10.6%であった。 自由意見では、「子どもが育てた野菜で給食が作られ、野菜を食べるきっかけになっている」「食事と補食が栄養満点で子どもとても満足しています」という声が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	72	9	4	0
「はい」の回答は84.7%、「どちらともいえない」の回答は10.6%、「いいえ」の回答は4.7%であった。 自由意見では、「園庭が広く、プールもあるので気候に合わせて臨機応変に戸外活動を入れてくれている」「園庭がとても広いのでたくさん自然を感じることができていると思う」という声が寄せられていた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	65	12	2	6
「はい」の回答は76.5%、「どちらともいえない」の回答は14.1%、「いいえ」の回答は2.4%、「無回答・非該当」の回答は7.1%であった。 自由意見では、「とても柔軟に対応してくれていると思います」という声が寄せられていた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	73	6	3	3
「はい」の回答は85.9%、「どちらともいえない」の回答は7.1%、「いいえ」の回答は3.5%、「無回答・非該当」の回答は3.5%であった。 自由意見では、「適切な避難訓練が行われていると思います」という声が寄せられていた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	69	11	3	2
「はい」の回答は81.2%、「どちらともいえない」の回答は12.9%、「いいえ」の回答は3.5%、「無回答・非該当」の回答は2.4%であった。 自由意見では、「年度はじめに年間の予定を出してくれるので仕事の調整がしやすいです」という声が寄せられていた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	71	12	1	1
「はい」の回答は83.5%、「どちらともいえない」の回答は14.1%、「いいえ」の回答は1.2%、「無回答・非該当」の回答は1.2%であった。 自由意見では、「連絡帳の枠いっぱいコメントを毎日書いていただいたり、受け渡しの際もたくさんお話できます」「日頃送迎に行けなくても、先生たちが挨拶をして気にかけてくださる姿があり温かい気持ちになります」という声が寄せられていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	72	9	2	2
「はい」の回答は84.7%、「どちらともいえない」の回答は10.6%、「いいえ」の回答は2.4%、「無回答・非該当」の回答は2.4%であった。 自由意見では、「建物は古いですが、整理整頓ができています」という声が寄せられていた。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	71	8	4	2
「はい」の回答は83.5%、「どちらともいえない」の回答は9.4%、「いいえ」の回答は4.7%、「無回答・非該当」の回答は2.4%であった。 自由意見では、「子どもには愛情深く、親にも親身になって接していただいています」という声が寄せられていた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	78	4	1	2
「はい」の回答は91.8%、「どちらともいえない」の回答は4.7%、「いいえ」の回答は1.2%、「無回答・非該当」の回答は2.4%であった。自由意見では、「怪我や熱に迅速に対応してくれて、いつも助かっています」「小さな傷に対しても報告してくれる」という声が寄せられていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	66	8	2	9
「はい」の回答は77.6%、「どちらともいえない」の回答は9.4%、「いいえ」の回答は2.4%、「無回答・非該当」の回答は10.6%であった。自由意見では、「友だちとトラブルになった時にしっかり状況を教えてもらえて助かります」「間に入って関わりかたを指導して下さるので助かってます」という声が寄せられていた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	78	4	0	3
「はい」の回答は91.8%、「どちらともいえない」の回答は4.7%、「無回答・非該当」の回答は3.5%であった。自由意見では、「子どもを肯定する声かけをしている先生が多く安心できる」という声が寄せられていた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	76	4	0	5
「はい」の回答は89.4%、「どちらともいえない」の回答は4.7%、「無回答・非該当」の回答は5.9%であった。自由意見では、「家庭のことまで配慮していただいている。他のご家庭のプライバシーに差し障りあるようなお話を聞くことは全くありません」という声が寄せられていた。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	76	5	2	2
「はい」の回答は89.4%、「どちらともいえない」の回答は5.9%、「いいえ」の回答は2.4%、「無回答・非該当」の回答は2.4%であった。自由意見では、「保護者会ではとても丁寧にスライドにまとめていただいております」という声が寄せられていた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	73	8	0	4
「はい」の回答は85.9%、「どちらともいえない」の回答は9.4%、「無回答・非該当」の回答は4.7%であった。自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	55	21	6	3
「はい」の回答は64.7%、「どちらともいえない」の回答は24.7%、「いいえ」の回答は7.1%、「無回答・非該当」の回答は3.5%であった。自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
		○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
		○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
		○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している
		○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	
	評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている
		○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
		○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
		○非該当
	カテゴリ1の講評	
	多様な情報発信により、園の理念と基本方針が職員と利用者によく共有されている 職員に向けては、理念や方針が記載された「重要事項説明書」を常に携帯できるようになっているほか、各クラスの「保育日誌」にも理念が添付されており、日々の記録とともに確認できる仕組みが整えられている。園の玄関にも理念が掲示されており、職員が日常業務の中で常に理念に触れ、保育実践の拠り所とすることができる環境が整備されている。利用者に対しては、新入園児を対象としたオリエンテーションや年度当初の保護者会といった場面で、園が目指す保育について説明する機会が設けられている。	
	経営層のリーダーシップのもと、園の理念実現に向けた組織的な取組が進められている 園の経営層は、定期的で開催される「職員会議」の場では、理念や基本方針を改めて読み上げ、全職員でその内容を確認する機会が設けられている。このことを通じて、経営層が担う「子どもの安全と安心な保育の確保」や「保護者の気持ちに寄り添う対応」といった重要な責任が、組織全体に伝えられている。また、年度ごとに行われる面談では、「職員面談シート」を活用し、職員が園の理念を踏まえて自らの目標を考える機会を設けている。その上で、一人一人が取り組むべき方向性を共に確認し、成長を促す働きかけが行われている。	
	組織全体での共通理解と利用者への丁寧な説明が行われている 園における重要な案件の検討や決定は、園のマニュアルに定められた手順に沿って行われている。具体的には、まず各クラスで事案を検討し、その意見をリーダー一会に持ち寄って組織としての方針を決定するという、現場の意見を反映するボトムアップのプロセスが確立されている。リーダー一会や各プロジェクトチームで決定された重要な事項は、その内容と決定経緯が職員会議の場で全職員に報告され、組織全体での情報共有と共通理解が図られている。また、利用者に対しては、特に重要な案件について、一人一人に手紙を手渡すという説明が行われている。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>利用者、職員から積極的に情報を収集し運営改善に活かすためのニーズ把握を行っている</p> <p>利用者に対しては、「保護者会」や「運動会」といった行事の後にアンケートを実施し、意向を把握している。寄せられた意見に基づき、保護者同士の交流時間を設けるなど、具体的なサービス改善に反映されている。職員の意向については、日々の業務を通じて出される意見や提案がプロジェクトチーム(PT)等で検討され、遊具や絵本の充実、施設環境の改善といった、より良い保育環境と職場環境の整備につながっている。</p> <p>地域の情報源からニーズを把握し、園運営の課題を明確化する体制が整えられている</p> <p>「地域会議」などを通じて近隣の保育園や関係機関との連携を図り、地域交流に関するニーズを把握している。区の広報誌や業界の情報誌からも福祉事業全体の動向を常に収集しており、子育て支援に関する情報提供を行うなど、園が地域で果たすべき役割を的確に捉えた取組が進められている。経営面においても、年間計画に基づいた計画的な予算管理が行われている。これらの多様な情報収集と分析を通して、園は「小学校や児童館等との連携を強化する」といった対応すべき課題を明確に抽出し、次の事業計画へとつなげている。</p> <p>理念の実現に向け、中・長期計画に基づいた着実な園運営が行われている</p> <p>園では、区の理念や計画と自園の現状を踏まえ、目指す保育の実現に向けた「中長期計画」が策定されている。さらに、この「中長期計画」の達成に向け、年度ごとの具体的な目標や行動計画を示した「単年度計画」が策定されており、長期的な視点が日々の実践に落とし込まれている。また、策定された計画を遂行するため、定められた予算の中で課題解決に向けた予算編成が行われている。計画と予算を連動させることで、理念の実現に向けた組織的かつ計画的な園運営が実践されている。</p>		

3 カテゴリー3		
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

### カテゴリ3の講評

#### 倫理規範の周知と定期的な自己評価を通じて、専門職としての意識向上が図られている

守るべき法や規範、倫理について、全職員への周知と理解を深める取組として、全国保育士会倫理要領や児童憲章が各クラスの保育日誌に挟み込まれており、職員が日常業務の中でいつでも倫理的な拠り所を確認できる環境にしている。また、これらの規範が遵守されているかを確認するため、定期的な自己評価の機会が設けられている。区の保育指針である「こころを育てる大田の保育」に付随する自己評価チェックリストを用いて、職員一人一人が子どもの人権尊重の視点から自らの保育実践を振り返っている。

#### 地域のニーズに応え、関係機関との連携を通じて地域社会に貢献している

園は近隣の保育園から寄せられた「園庭を利用したい」というニーズに応え、園庭を開放している。この園庭開放は地域で子育てをする家庭にも広げられており、園の資源を地域に還元する場となっている。また、夏祭りといった園の行事に地域の方々を招待するなど、交流の機会を創出している。さらに、園は地域における拠点園として、近隣の保育園長や主任が参加する地域会議を主催し、情報交換の場を提供している。この会議では、保育内容や人材育成といった共通課題について話し合い、地域全体の保育の質の向上を目指して協働する体制が整えられている。

#### 迅速に対応する苦情解決体制の整備と子どもの人権を守る取組が徹底されている

園内の苦情解決制度に加え、区のオンブズマン制度といった外部の相談窓口があることが入園前のオリエンテーションの場で保護者に伝えられている。また、これらの情報は園の玄関に掲示されているほか、重要事項説明書にも明記されており、利用者が遠慮なく制度を利用できる環境が整えられている。虐待が疑われる事態を把握した際には園内だけで抱え込むことなく、迅速かつ適切に対応するための体制が整備されている。虐待対応マニュアルに基づき、保育サービス課や子ども家庭支援センター、児童相談所といった関係機関と連携することが定められている。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>子どもの安全と安定した園運営を確保するため、体系的なリスク管理が実践されている</p> <p>施設の不具合や事故、感染症、災害といった様々なリスクが洗い出され、熱中症のリスクに関わるエアコンの故障を最優先に対応するなど、危険度や影響の大きさを考慮した優先順位付けが行われている。特定されたリスクに対しては、優先順位に基づき着実な対策が講じられている。施設の不具合は速やかに関係部署へ修繕が依頼されているほか、災害に備えた避難訓練が毎月実施されている。また、感染症発生時には専用の連絡システムを通じて保護者に情報が共有されるなど、状況に応じた迅速な対応体制が整えられている。</p> <p>体系的なリスク管理と迅速な対応により、安全で安心な園環境が確保されている</p> <p>大規模な災害や事故といった緊急時に備えて事業継続計画(BCP)が策定されており、これらの計画内容は職員会議やお便りを通じて職員と保護者に周知され、園全体での安全意識の共有が図られている。事故発生時には、事故報告書を作成し、状況、原因、対策を記録・分析することで、再発防止に努めている。感染症対策についても、感染症に関する情報を掲示し、注意喚起を行っている。これらの取組を通して、当該園は、リスクマネジメントを徹底し、安全・安心な保育環境の提供に努めている。</p> <p>情報の重要性を認識し、適切な管理と保護に向けた組織的な取組が実践されている</p> <p>園では、情報の収集から廃棄に至るまでの一貫した管理体制が構築されており、個人情報保護に関する規程やルールに基づいた適切な運用が実践されている。情報の収集、利用、保管、廃棄に関するルールが明確に定められている。職員、保護者、実習生、臨時職員に至るまで、園に関わる全ての人を対象に「プライバシーポリシー」を用いて利用目的を明示し、署名を得ることで、個人情報保護の重要性についての理解と遵守を徹底している。また、個人情報を含む書類はシュレッダーで裁断し、保管期限が経過した書類は定められた手順で確実に廃棄している。</p>		

5 職員と組織の能力向上			12/12
サブカテゴリ-1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		○非該当

#### カテゴリ5の講評

##### 職員一人一人のキャリアデザインを支援する取組として、個別職員面談が進められている

人材の確保は主に区が主体となって進められている。配置にあたっては、各職員の経験年数等を踏まえるとともに、自己申告書の活用や職員面談を通じて一人一人の意向を確認しており、人材育成を意図した取組となっている。個別職員面談の機会などを活用し、職員が自身のキャリアデザインを考えることを促している。今後は現在行われているキャリアデザイン支援の取組をさらに発展させ、職層ごとの役割や求められるスキル等を具体的に示した「キャリアパス」として体系化し、それに基づいた園の実情に即した人材育成計画を策定していくことが期待される。

##### 職員一人一人の成長を支える取組として人材育成計画を策定している

新人職員に対しては職場外研修とOJTを組み合わせた育成の機会が設けられている。また、新人育成を担当する職員には「OJT研修」への参加機会を設けるなど、指導者自身の学びも支援している。その他、区や関係機関が主催する研修にも職員を派遣し、専門性の向上に繋げている。特に、園内研修についてはプロジェクトチームが主体となり、職員の意向を反映しながら企画、推進している。これらの研修内容は、「研修雑件」や「研修報告書」「園内研修記録」等で確認されている。職員一人一人の育成計画は、「職員面談シート」を用いて策定されている。

##### 学びや気づきを組織全体で共有し、チームで課題解決に取り組む文化が醸成されている

園では、研修で得た知識や技術は、個人のものにとどまらず、参加者が作成する「研修報告書」を基に職員会で報告されている。報告書はいつでも全職員が閲覧できるようファイルで保管されており、組織全体で学びを共有する体制が整っている。また、日々の保育における職員一人一人の気づきや工夫を、業務改善に活かす仕組みが構築されている。クラス内の課題はクラスリーダーが中心となって改善を図り、園全体に関わることはリーダー会や職員会で提案し、検討されている。その際、子どもを主体とすることを判断基準として建設的な議論が行われている。

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<b>評価項目1</b> 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
<b>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</b> 昨年度は事務の作業時間がかかりすぎていることを重点課題と捉え、重点目標に10%の事務作業の削減を掲げている。昨年度の重点施策として行事の事務作業の見直しに取り組んでいる。その結果、重点目標に掲げたことが100%達成できた。その要因としては、前例にとらわれず、柔軟に考えたことが上手く機能したと考えられる。こうした一連の取組を検証し、今年度に向けて、柔軟な姿勢を継続し、行事以外の事務作業の見直しに発展させている。	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<b>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</b> 昨年度、事業所では事務作業の効率化を重点課題として位置づけ、具体的な目標を設定して業務改善に取り組んでいる。重点施策として行事に関わる事務作業の見直しに着手した結果、目標として掲げた事務作業時間の10%削減を達成している。この成果は、旧来の手法に固執することなく、職員が柔軟な視点で業務プロセスを再検討した結果であり、組織的な課題解決能力の高さを示すものとして高く評価できる。 さらに、昨年度の成功体験に留まることなく、今年度は行事以外の事務作業にも見直しの範囲を拡大させており、継続的な業務改善への高い意欲がうかがえる。こうした一連の取組は、職員が子どもと向き合う時間を確保し、保育の質の向上に直接的に繋がる重要な活動であると認識されている。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度は子どもの人権の尊重を重点課題と捉え、重点目標に年度内に子どもの人権の尊重について深めなおし、保育の質の向上を図ることを掲げている。

昨年度の重点施策として子どもへの言葉の掛け方等をテーマにした園内研修に取り組んでいる。

その結果、重点目標に掲げたことが100%達成できた。その要因としては、園内研修等、学ぶ機会の工夫が上手く機能したと考えられる。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園では、子どもの人権尊重を重点課題として位置づけ、全職員でその理解を深め、保育の質の向上を図ることを目標に掲げ取り組んでいる。

その目標達成に向けた具体的な取組として、「子どもへの言葉の掛け方」などをテーマとした園内研修を計画的に実施している。この結果、年度目標を達成しているが、これは職員が日常の保育実践を振り返り、互いに学び合う機会を設けたことが、職員一人一人の人権意識の向上に繋がり、目標達成の大きな要因となっていると評価できる。

こうした意識的な学びの機会が、日々の保育における子どもの尊厳を守る実践へと繋がり、保育全体の質の向上に結びついている。

## Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>利用を希望する一人一人に寄り添った、丁寧で分かりやすい情報提供がなされている</p> <p>利用を希望する方々は、ホームページや園で配布される概要冊子、地域の子育て家庭を対象としたお知らせ配信など、多様な媒体を通して園の情報を得ることができる。外国籍の方に向けては「重要事項説明書」の英語版・中国語版が用意されており、様々な背景を持つ利用希望者への配慮が見られる。見学については、定期的な見学会に加えて個別対応も行われており、希望者がそれぞれの状況に合わせて園の様子を知る機会が保障されている。その際には、園が大切にしている安心・安全への考え方や、入園後の生活をイメージできるような説明が行われている。</p> <p>専門性を生かしたチーム連携により、質の高い情報提供体制が構築されている</p> <p>利用希望者からの問い合わせや見学の対応では、その内容に応じて園長や副園長、保育士だけでなく、栄養士や看護師といった専門職が直接説明を行う体制が整えられている。これにより、食事や健康に関する専門的な質問や個別の不安に対しても、的確かつ丁寧に答えることが可能となっている。各職員がそれぞれの専門性を発揮し、連携して対応する組織的な取組は、利用を希望する方々へ質の高い情報を提供し、園への信頼感を高めることにつながっている。</p> <p>地域社会との連携を深め、子どもの育ちを支える開かれた園づくりが進められている</p> <p>子どもの円滑な就学に向けて、「保育所児童保育要録」や「就学支援シート」を活用して小学校と情報を共有しているほか、特別な配慮を必要とする子どもについては関係機関と連携し、継続的な支援体制を築いている。また、「施設地域会議」や児童館との懇談会などを通じて、近隣施設と積極的に情報交換を行い、地域交流の機会を創出している。さらに、園庭開放や離乳食講習会、行事への招待といった地域子育て支援活動を定期的に行っており、地域に開かれた園として、子育て家庭を支える拠点としての役割を担っている。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p><b>重要事項説明書は新入園のオリエンテーションで説明をして同意を得ている</b></p> <p>サービスの開始にあたり、3月に新入園児オリエンテーションを行っている。オリエンテーションでは重要事項説明書の内容を保護者に分かりやすく説明するために、図表やイラストを盛り込んだスライドを使用して行っている。重要事項説明書に関する確認票は確認後にチェックを入れる構成となっているが、説明が行われた後に、すべての項目にチェックを入れて提出してもらうことで、保護者の同意の確認を行っている。重要事項説明書は、保護者が携帯電話などでいつでも内容の確認が行えるよう、アプリを通してデータ配信も行っている。</p> <p><b>利用直後の子どもや保護者の不安が軽減されるように配慮している</b></p> <p>利用開始直後は、入園前の面接時に聞いていた家庭養育状況や勤務状況を参考にして作成した「慣れ保育表」に沿って進めながらも、子どもの実際の状況を見て、無理なく園での生活に慣れていけるようにしている。また、保育中は例えば大人数での慣れない環境で過ごすのは子どもにとって大きなストレスを感じてしまうことになるので、少人数で過ごすようにして、子どもの不安やストレスが軽減されるようにしている。保護者にも園での子どもの様子を丁寧に伝えることにより、子どもを預けることへの不安な気持ちが軽減されるようにしている。</p> <p><b>サービスの終了時には、支援の継続性に配慮した支援を行っている</b></p> <p>就学をする子どもには、就学する小学校へ子どもの状況を伝えるために、保育所児童保育要録や就学支援シートを作成している。作成した書類は小学校へ送付するほか、幼保小連絡協議会でも報告をしている。就学先の小学校や児童館から子どもについての問い合わせがあった場合には、保育園での生活の様子を伝えるなど継続した支援を行っている。転園や退園をした保護者から相談を受けた場合には、保護者の気持ちに寄り添いながら話を聞き、不安な気持ちが軽減されるようにしている。また退園する子どもに対しては、職員からメッセージカードを渡している</p>		

サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 13/13
<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
<b>評価項目2</b> 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	○非該当
<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p>年間計画や月案・日案などの指導計画は、園の全体的な計画を踏まえて作成している</p> <p>大田区の全体的な計画を基に、園の全体的な計画を作成している。さらに園の全体的な計画を基に、養護と教育の各領域を考慮し、「子どもの姿」「ねらい」「内容」「環境構成」「援助・配慮」「家庭・地域との連携」「行事」の項目ごとに4期に分けて年間指導計画を作成している。また年間計画から落とし込んだ月案は、子どもの発達やその時の子どもの状況、季節の変化などを鑑みて作成している。週案・日案は月案を基にして、前の週の子ども様子も考えながら、さらに具体的に細かく作成している。</p> <p>指導計画は、子どもの状況などを見て必要に応じて見直しを行っている</p> <p>園の全体的な計画は、年度当初に前年度の計画を踏まえて見直しや確認を行っている。年間計画は期ごとに振り返りを行い、また、月案は毎月振り返りを行って見直しを図っている。その際子どもを取り巻く状況に変化があった時には、指導計画に反映させるようにしている。また、保護者の気持ちに寄り添うことを大事にしているため、保護者から要望などがあった場合には、その内容を検討したうえで計画に取り入れるようにしている。計画が計画だけに終わらないようにするため、実践されているかどうかの確認や反省を日誌に記入するようにしている。</p> <p>子ども一人一人の理解を深めるために、事例を用いて話し合う機会を作っている</p> <p>保育を行う中で、子どもの姿に気になることがあれば、時間を作って職員同士で話し合う機会を設けている。またクラス会議では、子どもの様子を伝え合い、様々な視点で子ども一人一人の姿を捉えられるようにしている。園内研修においても、事例を持ち寄り話し合う場を設けているが、用いた事例について職員間でお互いの考えを伝え合うことで、子どもや保育について新たな気づきに繋がる機会となっている。配慮が必要な子どもの姿については、関係機関から話を聞くことで、理解を深められるようにしている。</p>		

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>年齢に合わせた子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている</p> <p>0・1・2歳児クラスから子どもの羞恥心に配慮する環境作りを行っており、おむつ替えの時には衝立を利用してほかの人からは見えないようにする配慮をしている。3・4・5歳児クラスでは、夏の水遊びの時期に着替える時や身体測定の際には、外部から見えないようにカーテンを閉めるなどの対応をしている。5歳児クラスには、看護師がプライベートゾーンについての話をし、自分のからだには自分だけの大切な場所があることなど、自分のからだについて知る機会を作っている。園で子どもの写真を撮る時にも、アングルなどに配慮をしている。</p> <p>外部と子どもに関する情報のやり取りを行う場合には、保護者の同意を得ている</p> <p>重要事項説明書の中に「大田区立保育園プライバシーポリシー」と「個人情報の利用目的について」との記載があり、保護者には個人情報の取り扱いについて理解してもらうようにしている。小学校へ提出する「保育所児童保育要録」については、5歳児の第1回目の保護者会で説明して周知を図っている。また、それ以外で子どもに関する情報を外部機関とやり取りする必要が生じた場合には、保護者に都度説明を行って同意を得るようにしている。</p> <p>虐待防止や早期発見のため子どもを注意深く観察するなどの対応を行っている</p> <p>虐待防止や虐待早期発見については「児童虐待対応マニュアル」に則って対応を行うようにしている。子どもの様子については、日々の保育において、あざがあったり怪我をしていないか、前の日と同じ服を着ていないか、態度に変化はないかなど注意深く観察し、おかしいと気づいた時には、保護者や子どもに確認をしている。場合によっては関係機関と連絡を取って、情報共有を行っている。職員においては毎年交代で外部研修に参加しており、研修を受けた職員はその内容を職員会で報告し、尚且つ研修記録を残して職員間で共有できるようにしている。</p>		

サブカテゴリ-6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリ-6の講評		
<p>手引書の整備と全職員による日常的な活用を通じ、サービス水準の維持が図られている</p> <p>園が提供するサービスの基本事項や手順は、「重要事項説明書」や園独自のマニュアルとして文書で明確にしている。これらの手引書は全職員に個別に配布されており、いつでも業務の拠り所として確認できる体制が整えられている。職員は、業務で不明な点が生じた際にこれらの手引書を日常的に活用しているほか、保育内容について考える際には区の保育指針である「こころを育てる大田の保育」を参照するなど、保育の質の向上に努めている。また、手引書の活用を促すため、特に必要性の高い内容は抜粋して保育室内に掲示するといった工夫も行われている。</p> <p>手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取組を行っている</p> <p>提供しているサービスが定められた手順に沿って実践されているかを確認し、継続的に見直す仕組みを構築している。日々の実践から生じた課題や改善点は、「リーダー会」で検討され、手引書の内容に反映している。また、行事後に実施する保護者アンケートの結果もサービスを見直すための重要な情報として活用されており、行事の振り返りでは、次年度の計画に活かす視点で議論が行われている。このような組織的な改善の取組は、園全体のサービス水準を確保し、継続的に向上させていくための基盤となっている。</p> <p>利用者の声や実践の振り返りをもとに、サービスを継続的に見直す仕組みが作られている</p> <p>園が提供するサービスの基本事項や手順について、定期的に見直しを行う仕組みが確立されている。基幹となる重要事項説明書は年度末に次年度に向けた見直しが行われている他、園の行事についても年度末に実施される振り返りの中で次年度に活かすための検討がなされている。これらの見直しにあたっては職員の意見だけでなく、保護者からの意見や提案も重要な情報として収集され検討の過程で反映されている。保護者アンケートで寄せられた意見をもとに運動会の実施方法が改善されるなど、利用者の声をサービス向上につなげる具体的な取組が行われている。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	36/36
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>年齢や文化・習慣の違いを認め合えるような時間や環境を作っている</p> <p>日本以外の国が舞台となっている絵本を子どもに読み聞かせながら国や文化の違いがあることを伝えている。また園には国籍や容姿、言葉の違う子どもが在籍しているが、子どもがその違いを感じながらも、互いに認め合い尊重する心が育つよう働きかけを行っている。異年齢との関わりについては、園外活動や、朝夕などの特例保育の時間で、自然な形で縦割りの関わり合いが持てるようになり、さらに夏祭りなどの行事の中でも、お祭りの楽しさを共有したり、長い時間一緒に過ごすことでお互いを理解するなど、心地よく過ごせるようになっている。</p> <p>特別な配慮が必要な子どもが他の子と一緒に楽しめる保育環境になるように努めている</p> <p>特別な配慮が必要な子どもには、子ども一人一人の発達状態や特性に合わせた無理のない個別計画を作成して対応している。子どもには一人一人に得意不得意があることを伝え、職員や他の子ども達とも、支え合いながら一緒に生活を楽しめるような環境となるように努めている。日常の保育の中で、特別な配慮が必要な子どもが、他の子どもと一緒に活動するには、どのような内容にすれば楽しめるのかや、楽しむにはどのような援助をしていくことが必要なのかを考えた保育に取り組んでいる。</p> <p>小学校と連携を取って、就学への支援を行っている</p> <p>小学校の雰囲気を知ることや、入学することへの期待を抱いてもらえるようにするため、小学校体験へ参加し、在校生との交流を行っている。小学校交流会では、在校生が小学校生活について教えたり、一緒に遊んだり、算数ブロックやピアノの使い方を教えるなどしている。また、幼保小連絡協議会では、小学校への円滑な接続のため、保護者とともに作成した「就学支援シート」の内容を丁寧に伝えている。就学に対して不安を抱いている保護者には、個別で面談を行ったり、就学相談の専門機関へ繋いだりして不安な気持ちが解消できるようにしている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>家庭との生活リズムの連続性を考慮した午睡時間に行っている</p> <p>連絡帳での確認や送迎時に保護者と話すことにより、家庭での睡眠を含めた生活リズムを把握するようにしている。例えば前日の睡眠時間が少なく、子どもの様子からも寝不足気味な状態が感じられるような時は、午睡の時間を早めたり、休息の時間を設けるなどの配慮をしている。また家庭との生活リズムを考慮して、午睡はみんなが一律ではなく、子ども一人一人の生活リズムに配慮した時間で行うようになっている。5歳児については、就学に向けて年明けから午睡をなくしているが、子どもが疲れていると思われる場合には、休息をとる時間を設けている。</p> <p>降園時に保護者へその日の子どもの状況について丁寧に伝えている</p> <p>降園時には、その日の子どもの様子などを口頭で伝えるのに加えて、0・1・2歳児は連絡帳で、3・4・5歳児は各クラスのドア付近に掲示した「掲示日誌」にて伝えている。登園時に保護者から子どもの健康面での不安な状況について話があった場合には、日中の様子について丁寧に伝えるようにしている。また、園内には活動の様子を壁新聞という形で伝えたり、子ども達が作った制作物を展示しているため、保護者には降園時に見てもらうようにしている。保育中の子どもの体調の変化については、状況により保護者に電話で伝えている。</p> <p>子ども一人一人の発達に配慮して、基本的な生活習慣が身に付くよう援助している</p> <p>食事・排せつなどの基本的な生活習慣を身に付けられるよう、絵本を活用しながらわかりやすく子どもに伝える工夫をしている。また、子どもの年齢ごとの発達状態を頭に置きながらも、子ども一人一人の発達状態の差異に配慮して関わることで、無理なく自分のペースで生活習慣が身に付くようにしている。さらに園に在籍している看護師や栄養士がその専門性を生かして、健康教育や食育などを通して生活習慣が身に付けられるような支援を行っている。保護者には、保護者会、個人面談、クラスだよりなどで基本的な生活習慣の大切さを伝えている。</p>		
3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもの自主性や自発性を尊重した遊ぶ空間や環境作りに努めている</p> <p>園では子どもの自主性や自発性は、子ども自身が興味や関心を抱いた姿であり、取り組んだ経験や姿勢が子どもの成長に繋がると考えている。子どもが興味・関心を抱いた楽しさは、繰り返しその遊びを行う中で、好奇心や探求心が生まれ、それが子ども自身の成長に繋がるとともに、ほかの子どもにも刺激を与え、友だちとの関わりへと繋がっている。このような子どもの興味・関心・育てたい力を考慮に入れながら、玩具などを目にしやすい、手に取りやすい、遊び込めるなどを視点とした環境作りに努め、配置などの工夫を行っている。</p> <p>制作では、作品を保育室内や廊下などに掲示して子どもの創作意欲を高めている</p> <p>園では、子ども達が自由に自分の感情を音楽、造形、言葉などで表現することは、自己肯定感を高めることにも繋がると考えているので、表現を楽しむ時間に力を入れている。特に制作では、各クラスで子ども達の作品を常時保育室内に掲示したり、廊下の壁に貼り出したり、天井から吊るしたりしている。また例えば作品を玄関近くの展示スペースに置いて披露することで、送迎時に保護者が見て感心したり、家での子どもとの会話で取り上げたり、さらには友だちから評価されたりすることで、子どもの創作意欲が高められるようになっている。</p> <p>子ども一人一人の状況に応じて、言葉に対する感覚を養えるように配慮している</p> <p>子どもが友だちや保育者との会話を楽しみ、安心してのびのびと自分の思いや考えを表現できるように、常に肯定的に受け止めるようにしている。また子どもと話す時には、身をかかめて視線を合わせて対応することにより、物理的な側面、心理的な側面から、子どもが話をしやすい状況が作れるようになっている。さらに伝える必要があることがあれば、子どもの気持ちに寄り添いながら、丁寧にわかりやすく伝えるようにしている。0・1・2歳児クラスでは指差しや子どもの言葉を受け止め、思いに共感したり代弁して言葉で伝えられるよう援助している。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>日本の伝統文化をはじめ、子どもの興味や関心に合わせた行事を行っている</p> <p>園では、日本の伝統的な文化である「子どもの日」「七夕」「節分」「ひな祭り」などに因んだ行事を行っており、その行事の由来については、子どもが理解できるように年齢に合わせた説明を行って、子どもが行事に興味や関心を持ち、自ら進んで行事に取り組めるようにしている。そのほかの行事についても、行事を通じて子どもに経験させたいことや、その行事を行うことのねらいを明確にしている。そのうえで子どもの発達状況や興味・関心に合わせた内容の行事を考えて実施するように努めている。</p> <p>行事は子どもの意向や発想が反映できるようにしている</p> <p>「子どもの日の集い」「夏祭り」「運動会」などの行事は、3・4・5歳児クラスの「こんなことをやりたい」や「こんなものを作って参加したい」などの意向や子ども達の発想を反映できるような行事にしている。行事の実施当日までの取り組みでは、子ども達が試行錯誤を繰り返しながら活動を展開し、ひとつのことを協力してやり遂げることの喜びや楽しさを味わえるようにしている。行事の後には職員会議などで振り返りを行い、次年度の行事運営に生かせるようにしている。</p> <p>クラスだよりを通して行事における子どもの頑張りを保護者に伝えている</p> <p>園で行う行事については、年度初めに「年間行事予定表」で伝えるとともに、毎月の園だよりでも詳しい日程や内容を保護者に伝えており、保護者参加の行事であれば、それらを見ることで事前に保護者がスケジュール調整をできるようにしている。クラスだよりでは、行事に対して頑張っており取り組む子ども達の姿や、行事後の子どもの様子を伝え、家庭において子どもと行事についての話をすることで、子どもの成長を感じたり、保護者の行事への理解や協力が得られるようにしている。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもが安心して過ごせる環境にしている</p> <p>保育時間の長い子どもが安心し、くつろげるように、0～2歳児クラスでは、特に家庭的な雰囲気を感じられる環境にしている。また、各クラスともに子どもが好きなことをしてくつろげる空間や遊具を用意し、さらに保育者が話しかけたり一緒に遊んだりすることで、不安な気持ちや寂しさを感じさせないように配慮している。延長保育では、子ども一人一人の状態に合わせて、ゆったりと保育を行うようにしている。延長番の保育士の一人を同じ職員で固定して配置することにより、子どもも安心して過ごすことができる。</p> <p>保育形態が変化する場合でも子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている</p> <p>延長保育では、日中に使っている遊具だけでなく、延長時間用の遊具を追加で配置して、日中とは変化のある環境で過ごすことができるようにしている。さらに少人数での保育となるので、保育者と子どもの1対1での関わりを大事にしている。また異年齢での「合同保育」に保育形態が変化する場合には、年齢に応じた遊具や玩具を配置して、小さい子どもが危ない玩具などに触って怪我をするなどの事故が起これぬよう、安全に過ごせる環境を作りながら、自然な形で異年齢の交流ができるように配慮している。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○非該当
評価項目6の講評			
<p>子どもが楽しく食事がとれる環境作りに努めている</p> <p>0・1・2歳児クラスでは、落ち着いて食事ができるように、席を決めて少人数にしたり、グループごと時間差をつけて食べている。3・4・5歳児クラスでは、メニューや食材を伝えて、食事に対して興味や関心を持って意欲的に食べることができるようにしている。また、職員も同じ食事を摂ることにより、みんなで一緒に食べることを楽しさを感じられるようにしている。野菜などが苦手な子どもについては、園庭で育てた野菜を、栄養士がライブクッキングで調理する過程を見せることにより、その野菜に対して苦手意識が少しでもなくなるようにしている。</p> <p>子どもの体調や文化の違いに対応した食事を提供している</p> <p>アレルギーのある子どもについては、医師が記載した「アレルギー疾患生活管理指導表」を保護者に提出してもらい、月に1度保護者と面談をして献立の確認を行っている。食事の提供時には担任が調理担当者アレルギー食の確認を行って、間違いのないよう受け渡しを行っている。さらに食器の色を変え、席も離して独立させるなど、食事中に事故が起こらないように注意している。また食物アレルギーの子ども以外にも、特別な配慮が必要な子どもや、宗教食の対応が必要な子ども、体調が思わしくない子どもについても食事の配慮を行っている。</p> <p>子どもが楽しく食事ができる献立作りを行っている</p> <p>献立は1か月に2回のサイクルでメニューを回しているが、1回目のメニューで反省すべき点や改善を要する事柄が会議などで意見として出された場合には、2回目の時にそれらの意見を反映させるようにしている。さらに日々の朝礼時に、前日の子どもの喫食状況を確認しており、それを栄養士などが分析することで、次月以降の献立づくりに役立っている。また、子ども達が楽しく食事に向き合えるように、ランチボックスやパンバイキングなど、季節に合った献立や行事に即した献立を提供するなどの工夫をしている。</p>			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている		○非該当
評価項目7の講評			
<p>子どもが自分の健康や安全に関心を持てるようにしている</p> <p>看護師が、うがいや手洗いなど子どもの健康に関するテーマで、3・4・5歳児に向けて健康教育を行っている。健康教育では、例えば手洗いをテーマにした時には、正しい手の洗い方などを紙芝居などの視覚教材を使って子どもが理解しやすいように伝えている。また、安全指導については、年に1度3・4・5歳児を対象にして交通安全教室を実施している。安全教室では、地域の警察官を招いて、園内のホールに道路を見立てた場所を作り、そこで横断歩道を渡る練習をするなど、実践を交えて子どもが体で交通ルールを覚えられるようにしている。</p> <p>保護者と連携を取って、子どもの健康に向けた取り組みを行っている</p> <p>保護者には、区の「健やか子育てだより」を配布して、子どもの健康に関する知識を高めてもらうようにしている。園内で感染症などが発生した場合には、いち早くアプリで状況を伝えるときも、園内にも情報を掲示している。乳幼児突然死症候群予防については、年度初めの保護者会において、突然死症候群とはどのようなものなのかや、予防するにはどうしたらよいかについて看護師から保護者に説明を行っている。園では午睡時にはあおむけで寝ることを徹底し、0歳児は5分おきにプレスチェックなどの睡眠チェックを行って予防に努めている。</p> <p>配慮が必要な子どもの受け入れの体制を整えている</p> <p>現在食事形態などに配慮が必要な子どもに対しては、必要な対応をしっかりと行っている。子どもの安全確保や適切なケアの一例として、熱性けいれんを起こしたことのある子どもへの対応については、園で熱を測り、37度5分以上であれば保護者に連絡をして迎えに来てもらうようにしている。また疾患のある子どもからは、薬を預かるなどの対応を取っている。</p>			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している		○非該当
評価項目8の講評			
<p>保護者が安心して子育てできるように配慮している</p> <p>保育時間の急な変更があった場合には、保護者の気持ちに寄り添いながら、気持ちよく受け止めて対応している。保護者から子育てについて心配事や悩み事があるとの相談があった場合には、速やかに面談を行うなどの対応を取っている。また子どもの発達について気になるという保護者には、巡回相談を案内している。さらに必要に応じて療育などへも繋ぐようにしている。保護者が安心して子育てができるように、送迎時にはできる限り日中の子どもの様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたりするようにしている。</p> <p>懇親会は保護者同士が交流できる良い機会になっている</p> <p>保護者同士が交流できるように、保護者会では懇親会を行っている。保護者会は前半にスライドを使った園からの説明や持ち物など個別での対応を行い、後半の時間を懇親会に充てている。懇親会は数名ずつのグループに分け、保育士から提示されたテーマで話し合いをするというもので、少人数で行うため活発な意見交換がなされている。保育園では、保護者が一堂に集まる機会というのがあまりないため、この懇親会は保護者同士が親睦を図る良い機会となっている。</p> <p>保護者の養育力向上のため、保育参観や懇談会を行っている</p> <p>年に1度保育参観を行っている。保育参観は、自分の子どもの家庭とは違った一面や成長に気づくことができる機会となっている。園での子どもの姿を知ることで、保護者にとっての安心感や信頼感にも繋がっている。また、園で日頃どのようなことがなされていて、どのように保育士が子ども達と関わっているのかを見てもらうことで、家庭での子どもとの関わり方の参考になっている。さらに保護者会後半の懇親会で、子どもについてのタイムリーなテーマで懇談を行うことなどは、保護者の養育力向上に繋がる機会となっている。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している		○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している		○非該当
評価項目9の講評			
<p>図書館などの地域資源を利用して様々な体験や交流ができる機会を作っている</p> <p>5歳児クラスは近隣の図書館へ行き、お話会に参加をしたり、本を借りたりしている。公共の施設を利用することで、公の場では守らなければならないルールがあることを教えている。図書館でのお話会はボランティアの方が読み聞かせを行うので、地元の方との交流の機会にもなっている。さらに5歳児は地元の小学校で、小学校の生活を体験する小学校交流も行っており、就学への期待を膨らませる良い機会となっている。また警察の方の防犯訓練や、消防署の方の通報訓練など、園の職員にとっての社会資源活用も行われている。</p> <p>園に地域の子育て家庭を招待するなどして、地域の方との交流を図っている</p> <p>大田区の出組である育児応援券の利用希望者を受け入れている。保育活動に参加してもらうことで、子どもとの関わり方や食事の進め方などを見てもらう良い機会となっている。また、食事について悩んでいる家庭も多いので、離乳食講習会を行って子どもの食事に対する理解を深めてもらうようにしている。さらに講習会では、栄養士が相談や質問に応えることで子育て支援に繋がっている。隣接する公園で遊んでいる地域の親子を園庭に誘って紙芝居などのお話会に参加をしてもらい、地域の方との交流する機会を設けている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル①	他園の関係者を招き公開保育を行うことで、保育者の専門性を高めている	
内容①	園では、年に1回民間の保育園の方を招いて公開保育を実施している。公開保育では、日頃のありのままの保育を他園の保育士や専門家などの関係者に見てもらうことで、客観的な評価を受けることができ、園内では気づきにくかった保育内容の改善点などが見つけられ、より質の高い保育へと繋げることができるようになっている。また、他園の保育士と保育の取り組み方や業務における悩みなどについて意見交換をすることで、新たな気づきが得られ、職員の成長や専門性の向上を図ることができ、さらには小学校への連携を深める機会にもなっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目		
タイトル②		
内容②		

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	とうきょう すくわくプログラムは「絵本」をテーマにした取り組みを行っている
	内容	とうきょう すくわくプログラムの取組として、今年度は「絵本」をテーマに考察を行っている。通常保育でも保育者が絵本の読み聞かせを行ったり、室内に絵本コーナーを設置して、子どもがいつでも好きな絵本を読めるようにしているが、「絵本」が保育に及ぼす効用について深く考察したいと考えている。「絵本」は、物語などの世界に親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けることや、相手の話を注意して聞く姿勢を身に付けたり、言葉による伝えあいを楽しむことができるので、今後も継続した取り組みを行いたいと考えている
2	タイトル	園庭で野菜を栽培し、収穫した野菜はライブクッキングで調理の様子を見せている
	内容	食育の一環として、園庭でさつまいも、なす、ほうれん草などの野菜を栽培しており、子ども達は毎日水やりなどの世話をしている。収穫した野菜は栄養士がライブクッキングを行って調理の様子を子ども達に見せ、調理したものは給食で食べるようにしている。自分たちで栽培した野菜を食べることで、野菜に対する興味を持ち、苦手意識が薄れるようにしている。また、野菜を栽培することや収穫をすること、そして野菜の皮むきなどの体験をすることで、自分たちの口に入るようになるまでには、数多くの手間がかけられていることを学んでいる。
3	タイトル	職員一人一人の成長を組織の力に変え、チームで保育の質を向上させる優れた人材育成体制を構築している
	内容	園の理念実現の鍵が職員の専門性にあると深く認識し、個々の成長を促すための基盤を整えている。キャリアデザイン支援のための面談や、OJTと研修を組み合わせた体系的な育成計画、倫理規範を日常的に意識できる環境づくりなど、職員を多角的に支え、専門職としての意識向上を図る仕組みが評価できる。とりわけ、個人の学びを報告・共有し、組織全体の財産とする文化や、現場の意見を吸い上げるボトムアップの意思決定プロセスは職員の主体性とチームワークを引き出している。人が育つことで組織が強くなるという、理想的な好循環が生まれている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園外活動を行う頻度が少ないので、子どもが自然と触れ合う機会などを作るために園外活動の頻度を上げる取り組みを期待する
	内容	戸外活動として多く利用している園庭では草木が植えられ、野菜なども栽培されていて、それなりに季節を感じることができるが、園外にも池上本門寺公園をはじめ、たけのこ児童公園や徳持ポニー公園などの大小様々な公園が点在している。園外での活動は、自然の変化などを五感で感じられ、また園庭より広いスペースで走り回ったり体を動かしたりすることで体が鍛えられ、尚且つ地域の方との関わりが持てるようになる。現在散歩などの園外活動は、月に1回程度とのことだが、上記の観点からも園外活動を行う頻度を上げるなどの取り組みに期待する。
2	タイトル	各計画を有機的に連携させ、目標達成の評価を多角的に分析することで、継続的な改善サイクルをさらに深化させることが期待される
	内容	園では、中長期計画から単年度計画、さらには事務改善や人権尊重といった重点目標に至るまで、計画に基づいて実践されている。それぞれの計画や目標が個別に進められ、達成されている側面もあり、園全体の理念実現という大きな目的に向けて、各計画の有機的な連携をさらに強化していくことが次の段階として望まれる。そこで、目標達成の評価において、「100%達成」といった量的側面に加え、保育の質の向上や職員の意識変容にどう繋がったかという質的側面からの分析を深めることが有効であり、次の中長期計画に反映させることが期待される。
3	タイトル	多様な地域連携活動を園の中長期計画に戦略的に位置づけ、地域のニーズに根差した持続可能な社会貢献をさらに推進することが期待される
	内容	園は、小学校や関係機関との情報共有、園庭開放や行事への地域住民の招待など、地域に開かれた園として非常に積極的な活動を展開している。現在行われている活動は、寄せられたニーズへの対応や個別の企画としてそれぞれ成果を上げており、今後はこれらの活動を園の中長期計画における「地域社会への貢献」として戦略的に位置づけ、さらに発展させていくことが望まれる。そのために、まず「地域会議」等で把握したニーズや、園が持つ人材・施設といった資源を改めて分析し、どのような貢献が最も効果的かを検討することが有効である。